



第4回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティーを醸成し、産官学の対話を促進することにつながると期待されます。

本セミナーは、2~3か月に一度の頻度で開催し、全10回を予定しております。毎回、2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を聞くことができ、講師の先生と直接お話しいただける場を提供します。

第4回目は、アレルギーとがん免疫に対するアジュバントの開発研究と米国に於けるゲノムビッグデータの臨床応用をテーマにとりあげ最先端の研究を説明いただき、フロアの皆さんは熱心にメモを取る姿が見受けられました。また、質疑応答は予定時間を超えるほど活発に行われました。

日時：2015年6月12日（金） 15:00-18:00

会場：KMO カンファレンスルーム C-01（グランフロント大阪 北館 タワーC 8階）

15:00-16:00 「アレルギーとがん免疫に対するアジュバント開発研究の新展開」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
創薬デザイン研究センター・センター長

石井 健

ワクチンと同様に経験的な開発が主体だったアジュバントは、分子メカニズムの免疫学的、細胞生物学的な理解が近年飛躍的に進歩しつつあります。アジュバントが必要とされるワクチンの臨床応用の対象は感染症の枠を超え、がん、アレルギー、アルツハイマー病など非感染性疾患に広がっており、その開発は世界的に競争が増えています。本講演では特にアレルギーとがん免疫に対するアジュバント開発研究の成果の発表がなされました。一方で、アジュバントを含むワクチンの副作用が問題になっている昨今、アジュバントの生体反応を網羅的に解析した「アジュバントデータベース」も紹介されました。



16 : 00-17 : 00

「米国に於ける臨床ビッグデータを用いた観察研究」

大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座教授

新谷 歩

米国 NIH では臨床橋渡し研究に対する情報基盤を強化するため、2006 年より年間 12 億円の資金援助を 62 の拠点病院に実施しています。講師が 13 年医療統計家として勤務したヴァンダービルト大学では、NIH 支援の下、世界 88 か国 20 万人に活用される電子データ集積システムを開発するとともに、電子カルテデータを 2 次利用する被験者リクルートシステム、20 万人の遺伝子を集積するバイオバンクと 300 万人の電子カルテデータを連結させ、臨床データをリアルタイムに研究に活用するデータウェアハウスを構築されました。本講演では、テレビ番組の例を引き合いに、統計の基本をわかりやすく説明されました。さらに、医療分野への統計学の応用の重要性を説いた後、本システムを用い、行われた臨床ゲノム疫学研究論文をもとにゲノムビッグデータの臨床への応用について考察されました。



17 : 00-18 : 00 交流会・名刺交換会

会場： 公益財団法人都市活力研究所 セミナー室



監 修：坂田恒昭（大阪大学大学院基礎工学研究科 特任教授）

竹田 潔（大阪大学大学院医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター教授）

後 援：大阪医薬品協会

共 催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

主 催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-6459-6795（魚谷、梅村、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（味村）